

關西地方・工事特輯號

工事畫報九月號豫告

帝都復興の業成つて以來、しばらくにして今や我邦に於ける工事の重心は、大阪を中心とする關西地方に移つたかの觀がある。見よ！ 其處には道路に、橋梁に、建築に、そして河川、港灣、地下鐵道等々々、夥しき數と量との工事が、業界の不振を他所に潑刺として營まれてゐるのだ。茲に我等、新涼の九月號を『關西地方工事特輯號』とする所以である。

もとより我等は、既に廣く全國の工事情勢を報道して怠る處なかつた筈だ。然も此處に敢て關西特輯號をおくらんとする！ 或意味に於て國勢の一部を表徴する工事の、最も盛んなる地方の工事情勢を特輯して、外に國力の一端を示し、内に業界振興に一助たらしめんとする意圖に他ならない。我等微力、然も揮身の努力を以て敢て此舉を企つ、大方諸彦の贊助と聲援を冀つてやまぬ次第である。

| | |
|---------------------------|-----------------------|
| 京 都 府 工 營 課 長 | 小 笠 原 嘉 兵 衛 氏 |
| 京 阪 國 道 改 修 工 營 所 長 | 原 田 田 民 部 氏 |
| 京 都 市 役 所 土 木 局 長 | 高 田 景 田 氏 |
| 同 同 都 市 計 畫 課 長 | 富 木 村 氏 |
| 同 同 都 市 技 術 課 長 | 木 鹽 谷 氏 |
| 大 阪 府 土 木 部 長 | 澁 田 江 武 課 氏 |
| 同 同 府 役 所 土 木 部 長 | 和 島 福 留 營 課 氏 |
| 同 同 工 務 課 長 | 中 野 技 氏 |
| 同 同 河 川 部 長 | 荻 藤 野 博 健 氏 |
| 同 同 港 灣 部 長 | 近 松 本 花 氏 |
| 同 同 技 術 課 長 | 松 木 井 野 本 氏 |
| 同 同 電 氣 局 第 一 建 設 事 務 所 長 | 河 坂 野 山 藤 氏 |
| 同 同 內 務 省 大 阪 土 木 出 張 所 長 | 下 後 近 古 沼 岡 高 三 目 森 氏 |
| 京 阪 電 鐵 建 設 課 長 | 藤 川 田 部 西 輪 黑 氏 |
| 南 海 鐵 道 技 術 課 長 | 武 佐 兵 淳 政 三 敬 周 清 氏 |
| 同 同 臨 時 建 設 課 長 | 武 佐 兵 淳 政 三 敬 周 清 氏 |
| 鐵 道 省 神 戶 改 良 事 務 所 長 | 武 佐 兵 淳 政 三 敬 周 清 氏 |
| 同 同 技 術 課 長 | 武 佐 兵 淳 政 三 敬 周 清 氏 |
| 尼 崎 築 港 技 術 課 長 | 武 佐 兵 淳 政 三 敬 周 清 氏 |
| 同 同 內 務 省 神 戶 土 木 出 張 所 長 | 武 佐 兵 淳 政 三 敬 周 清 氏 |
| 兵 庫 縣 土 木 部 長 | 武 佐 兵 淳 政 三 敬 周 清 氏 |
| 同 同 技 術 課 長 | 武 佐 兵 淳 政 三 敬 周 清 氏 |
| 神 戶 市 役 所 都 計 課 長 | 武 佐 兵 淳 政 三 敬 周 清 氏 |

此に本特輯號の企劃に關し贊助を賜ひ、編輯上幾多の資料を快く提供指揮せられた以上の人々(順不同)に對し感謝の意を表し、かねて讀者諸君の期待と後援を俟つものである。

昭和六年七月

工 事 畫 報 社